

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2390400238		
法人名	株式会社 ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家栄生		
所在地	名古屋市西区名西一丁目17-22		
自己評価作成日	平成30年2月8日	評価結果市町村受理日	平成30年5月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.katagokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?action_kouhyou_deta1_2017_UZZ_kani=true&amp;lievsynCd=2390400238-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=02">http://www.katagokensaku.mhlw.go.jp/z3/index.php?action_kouhyou_deta1_2017_UZZ_kani=true&amp;lievsynCd=2390400238-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=02</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階
訪問調査日	平成30年3月6日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者さんの意志を尊重しつつその立場になって、利用者さんが主役になるように考え、利用者さんお一人お一人の状況に合わせて毎日楽しく笑顔で過ごしていただけるように努めている。共に生活する場を大切に寄り添いながらのケアを実践しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

大通りから少し入った静かな住宅街の中に事業所がある。事業所の玄関横に氏神様の小さな社があり、町内の守り神として町の人たちが大切にお世話をしており、お参りに来る人などと入居者との交流の場ともなっている。事業所は1階に小規模多機能住宅介護事業所、2階に1ユニットのグループホームがある。入居者が地域と繋がりがながら暮らし続けられるように町内会に加入し地域行事の豆まきや祭りに参加したり、事業所で月1回行うオープンカフェなど地域との交流を大切にしている。運営推進会議も同法人3事業所と合同で行われ、地域や行政、入居者、家族など多くの参加を得て行われている。「皆が楽しく、最期をここで過ごせてよかった」と入居者や家族から思ってもらえるような温かい場所にしたいと、職員みんなで努力している。入居者は明るく広い居間でテレビを観たり、談笑したり、ソファでブランケットをかけた快適な仮眠タイムをとるなど、それぞれが穏やかでゆったりとした時間を過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の経営理念にある「人を大事にする」「最大ではなく最高のサービス提供」を心掛け寄り添える介護を目指している	法人の9つの経営理念は事務所に掲示されている。また、ポケット小冊子をスタッフが各自携帯していつでも確認が出来るようにしている。毎月のミーティングでは経営理念を一つずつ取り上げ話し合う中で、共有と浸透に努めている。日々の申し送りでも話し合いケアに活かしている。	法人の経営理念をもとに、グループホーム独自の理念を皆で話し合っ作り、より具体的にケアに活かされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	オープンカフェを毎月開催し地域の方々との交流を深めている。地域の行事の参加、日常の散歩などから地域とのつながり関わりを持つように努めている。	町内会に加入している。運営推進会議等で地域の情報を得て、地域行事には積極的に参加している。併設の小規模多機能で毎月行われるオープンカフェでは地域の方や地域ボランティアとの交流があり、日々の散歩や買い物で行き交う人とのか関わりも大切にしている。地域の中学生や高校生の体験学習を受け入れている。	町内会に加入しているので、回覧板等を回してもらうなど、情報をタイムリーに得て行事計画を早め立て、入居者家族からの要望に答えられることを望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員の方々を通じ支援の働きかけをして交流を持てるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎の運営推進会議で事業所の実績報告、行事報告を行い参加者の意見や提案を頂きサービスの向上に努めている。	運営会議は年6回、同地域の法人3事業所と合同で開催している。入居者や家族、各地区の町内会長、民生委員、老人クラブ会長、いきいき支援センターと多くの参加を得ている。各事業所の取り組みや状況報告、意見交換をし提案された意見はその場合で協議したり、カンファレンスで話し合いサービス向上や運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政への認定書類の提出など機会のある時に市町村担当者から指導を頂くようにしている。	認定書類や更新の代行業務などで行政へ出向くなど機会あるごとに担当窓口を訪れ、アドバイスや指導を受けたり情報交換に努めている。法令に関する変更事項等の指導を受けたり、行政主催の研修や講演会等に参加して協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をしない支援に努め、毎日の申し送りやミーティングを開催し職員同士で意見を出し合い注意を払っている。	法人として身体拘束をしないケアに取り組んでいる。マニュアルを整備し、年1回研修を行っている。欠席者も資料やDVDで受講し、全員が報告書を提出している。拘束については、日々の申し送りやミーティングで事例をもとに具体的な話し合いを重ね職員間で共有しケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティングや内部研修で虐待防止について学び見過ごすことのないよう注意を払っている。言葉の百態についても見逃さないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護事業などについて学び必要な方には支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際にはご本人だけでなくご家族にも不安を抱えないよう十分な説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の方の面会時にはできる限り意見や要望を聞き入れられるように努めている。	入所者からは日常ケアの中で色々な意見を聞き、家族からは面会時や行事、運営推進会議などで意見や要望を聞き、記録をしてミーティング等で話し合い運営に反映している。意見箱を設置している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者は従業員個々の意見を聞き入れるようアンケートの実施に努め直接伝えられるような機会も設けてくれている。	代表者はアンケートを実施して、従業員個々の意見を引き出したり、個別面談を行い将来の目標や意見・要望を聞く機会を設けている。日々の申し送りや毎月のミーティング時では職員からの意見や提案を聞き運営に反映させるように努めている。	管理者は小規模多機能事業所とグループホームの管理者を兼ねており、業務も大変と思われるが、両者とも意見を聞き運営に反映される機会を更に増やすことを期待する。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は従業員個々が遣り甲斐の持てるよう給料水準のアップ、働きやすい環境作りにも目を向けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	均等に職員が研修を受けられるように年間計画を立て実施してスキルアップ向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者との交流を持てるよう相互訪問に努め地域開催の勉強会などにも参加できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いをうまくみ取り耳を傾け聞く姿勢を取るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	最初に不安を抱えているであろうことを傾聴し助言、支援を行うことで信頼関係を構築できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族が望んでいる支援を見極めその状況に合わせた支援サービス利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は共に強制できるよう一方通行の支援にならないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人へのご家族の思いを大切に支えていけるように努め、ご家族のこともサポートできるように更に心がける。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで大切にしてきた事柄時間を優先に考え持続できるように希望に沿うように努めている。	入所者のこれまでの生活歴を把握し、本人が大切にしてきた人や場所、物事の関係が継続できるように支援している。馴染みの喫茶店やケーキ屋さん、地域の小学校の運動会や八坂神社のお祭りに出かけたり、絵手紙や年賀状の支援などで馴染みの関係継続を工夫している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が孤立しないように支え合えるように支援を務めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後にも必要に応じてご家族からの相談に向けフォロー支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、意向を尊重している。	傾聴する姿勢を忘れず、親身になった対応を心がけている。会話が困難な人でも表情や日々のケアの中で思いをくみ取るように努めている。なるべく褒めて、前向きに明るく生活できるようにし、1日に1回・2回と笑ってもらえるようにしたいと心掛け支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その人の生活歴や暮らし方、生活環境などを把握しながら望まれる暮らしを支援していく。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの現状を把握して努めていく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がよりよく暮らすための課題とケアの在り方について関係者と話し合いご本人の現状に沿った介護計画を作成する。	日々の申し送りや毎月のケアカンファレンスで情報交換を行い、3か月ごとのモニタリングを経て介護計画の見直しは6か月に1回行っている。ミーティングで問題や課題があれば随時見直しをしている。入居者や家族と話し合い、必要時医師や看護師とも意見交換をしながら現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画、個別の記録に沿って職員間で情報共有できるように生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に対応して柔軟な支援やサービスの向上に努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人おひとりの暮らしている地域資源を把握してご本人らしく安心安全な生活ができるように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に沿った医療機関に受診して頂き適切な医療を受けられるように情報提供していく。	入居時にかかりつけ医か提携医かの希望を聞いている。提携医による内科の往診が月2回、眼科が月1回あることから、現在は入居者全員が提携医を主治医としている。また、訪問看護師とも連携を取り健康管理に努めている。健康状態に変化があった場合は、訪問看護師や主治医に相談し、協力医療機関とも連携して速やかで適切な医療提携に努めている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と連携し適切な受診や看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーの提供や面会に行き早期に退院できるように医療とも情報共有している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に重度化についてご家族に説明をして終末期についても話し合いをしている。	入居時に重度化した場合や終末期についての説明と指針を明らかにしている。重度化する可能性がある場合には早めに家族に報告をし、主治医や訪問看護師を交えて話し合いを重ね、方針を確認している。看取りに対応できるように看護師の協力を得たり、看取り経験を踏まえての研修を重ね職員間で共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	すべての職員は応急手当や初期対応が身に付けられるよう学ぶ機会を作っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年間計画を立てて防災訓練、避難訓練を、地域の方を交えて実施している。	年2回の防災訓練計画を消防署へ提出し、消防設備業者で設備の点検と機器の点検を行っている。消火訓練や避難訓練も業者の協力を得て実施している。年1回の地域との合同防災訓練に参加し、避難経路を確認している。設置したAEDの講習会実施予定であり、地域への参加呼びかけを計画している。3日分の水や食料の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お一人おひとりの人格を尊重してプライバシーに配慮して行っている。	入居者一人ひとりのこれまでの生き方を尊重し、プライバシー保護に努めている。声掛けや目線に配慮した支援に心がけている。トイレへの声掛けは他の入居者にわからないように気遣い、尿漏れの確認等は居室でプライドを傷つけないように行っている。日々の申し送りやカンファレンスで、特に雑になりがちな言葉使いなどに注意に向けた話し合いをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の思いや希望に心をかけ日常生活の中で自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人おひとりのペースを大切に希望に沿って支援していく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい装い、身だしなみができるよう支援していく。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみに感じられるよう個々の好物の聞き取り利用者さんと共に楽しみながら食事作りできるように努める。	配達された食材で職員と入居者が一緒に作っている。同じ食材でも入居者の好みや希望を取り入れたメニューに変更する等食事の楽しみが持てるように工夫をしている。入居者の能力に合わせて準備や盛り付け、後片付けを一緒に行い、職員も入居者と一緒に食卓を囲み雰囲気盛り上げている。手作りおやつや外食ツアー、寿司や丼の出前行事も楽しみの一つとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人おひとりの状態に合わせて適切な栄養バランスを考えて注意を払って支援していく。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	清潔保持、疾病防止に気を配り実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を取り状況に応じた排泄リズムができるよう支援していく。	排泄状況はチェック表を確認し、個々の排泄パターンを把握したり、しぐさや表情から察して声掛けをし、トイレでの排泄が維持できるように支援している。リハビリパンツや尿取りパットも上手に利用し排泄の失敗がないように支援している。便秘予防では排便チェック表を基に水分摂取や運動などを促す自然排便に取り組んでいる。必要時には看護師や医師に相談し対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の排泄記録、申し送りにて確認し食事、飲み物の摂取を促しコントロールできるように努める。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	お一人おひとりの希望やタイミングに沿った声掛け、楽しんで入浴できるように支援していく。	入浴は基本的に3日に1回としているが、入居者の希望を入れたり、必要時は適宜入浴をしている。湯は一人ひとり入れ替えて清潔にし、ゆず湯や菖蒲湯など季節を感じる湯など取り入れ、入浴が楽しめるようにしている。冬季のヒートショック予防等環境を整えることで、入浴拒否の方への声掛けや誘いやすさの支援につなげている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人おひとりの生活習慣やその時々状況に応じて休息して頂き安心して眠れるように導く。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員がみな薬の目的効能を把握して適切な支援ができるように努める。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの生活歴や暮らし方などを考え楽しみながら気分転換できるように支援していく。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の状況、希望に沿って外出できるよう支援に努めている。	天候が良い時はほぼ毎日、歩ける人と車いすの人でベアを組み散歩に出かけている。入居者の希望で食品や衣類の買い物を楽しむこともある。家族の協力を得て外出や外泊、ドライブに出かけたり、また皆で名古屋城や徳川園、木曾三選公園などにも出かけている。年間計画も立てるが、その時々入居者や家族の希望に添って支援ができるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人おひとりのの希望に応じお金の使い方を支援していく。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その時に応じ電話や手紙などの連絡手段を活用する。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は過ごしやすいように配慮、刺激などないように気を配り居心地良い空間で過ごしていただけるように支援していく。	リビングの天井が高く明るい雰囲気、食堂と居間がワンフロアになっており、入居者の動きや気配が一目で見渡せるようになっている。。居間の壁面には季節の飾り物や入居者の得意な大人の塗り絵などが飾られて温かみを感じられる。ソファや椅子など団らんが出来る工夫がされた中で、入居者はゆったりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間でのお一人おひとりの居場所作り、他社との共有の時間に気を配っていく。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には使い慣れたものを配置し居心地の良い空間作りをご家族、ご本人と相談しながら行っていく。	居室は使い慣れた家具や小物を持ち込んだり、自作の作品や写真を飾って、居心地の良い自分の空間作りをしている。つまずき予防のために物の配置に工夫をしたり、清潔保持に留意している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は危険な物や障害を妨げ安全確認をして尊重できる空間作りに配慮する。		